

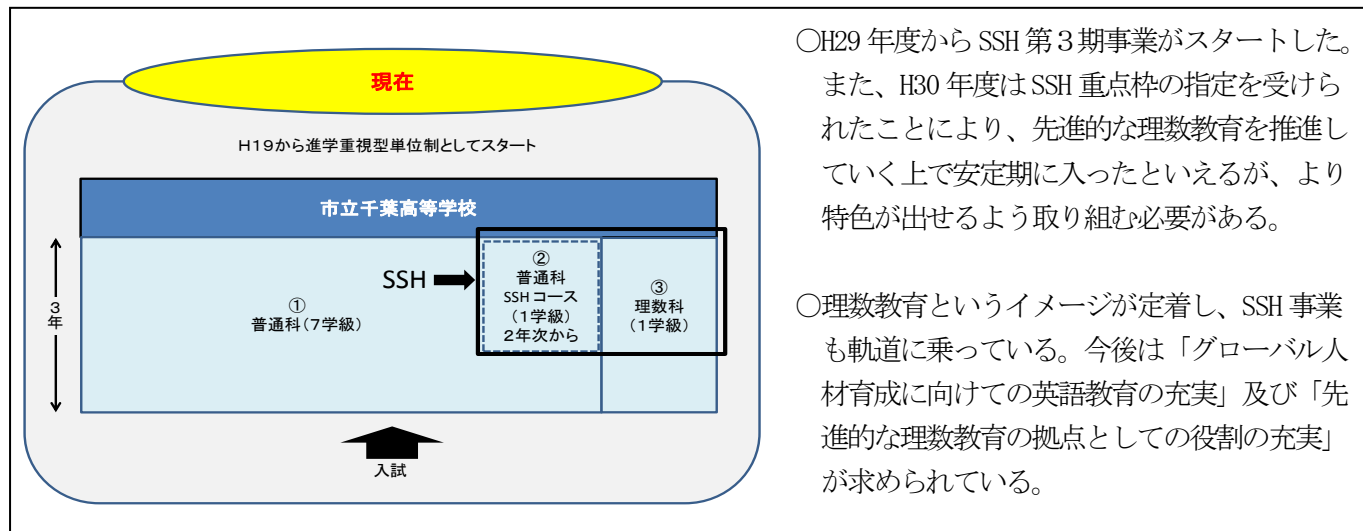
## 今後の市立高等学校改革の方向性

少子化の進展や高等学校を取り巻く環境に対応するとともに、2校の存在意義を明確化しながら「市立」ならではの特色と魅力を高め、市民ニーズに応えられる学校づくりを進める。具体的には、2校がこれまで培ってきた強みを生かし、市立千葉高等学校では理数教育、市立稲毛高等学校では国際教育の中核となる取組みを推進する。

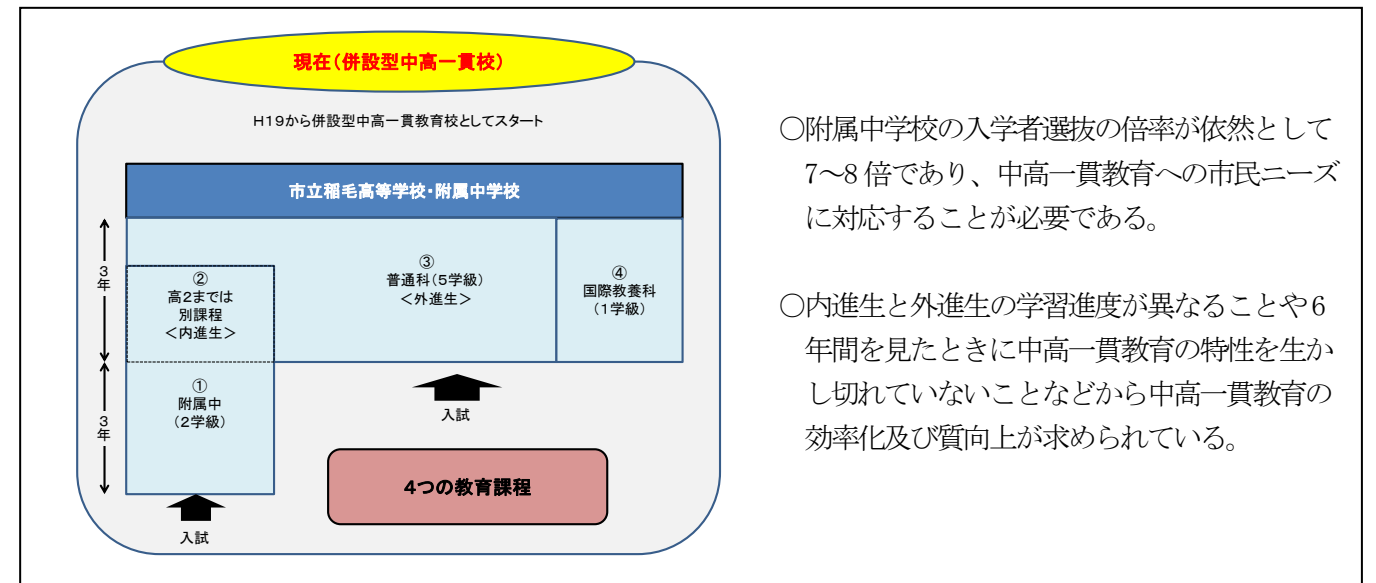
市立千葉高等学校では、第3期SSH事業の指定を受け、先進的な理数教育を実施している学校として認識されているため、現行の体制を大きく変更せず、現在の取組みを拡充する。

また、市立稲毛高等学校・附属中学校においては、社会情勢や市民ニーズなどから、高校からの入学者を取らない「中等教育学校」に移行し、現在の中学校・高等学校を通した6年間の一貫教育の充実を図る。

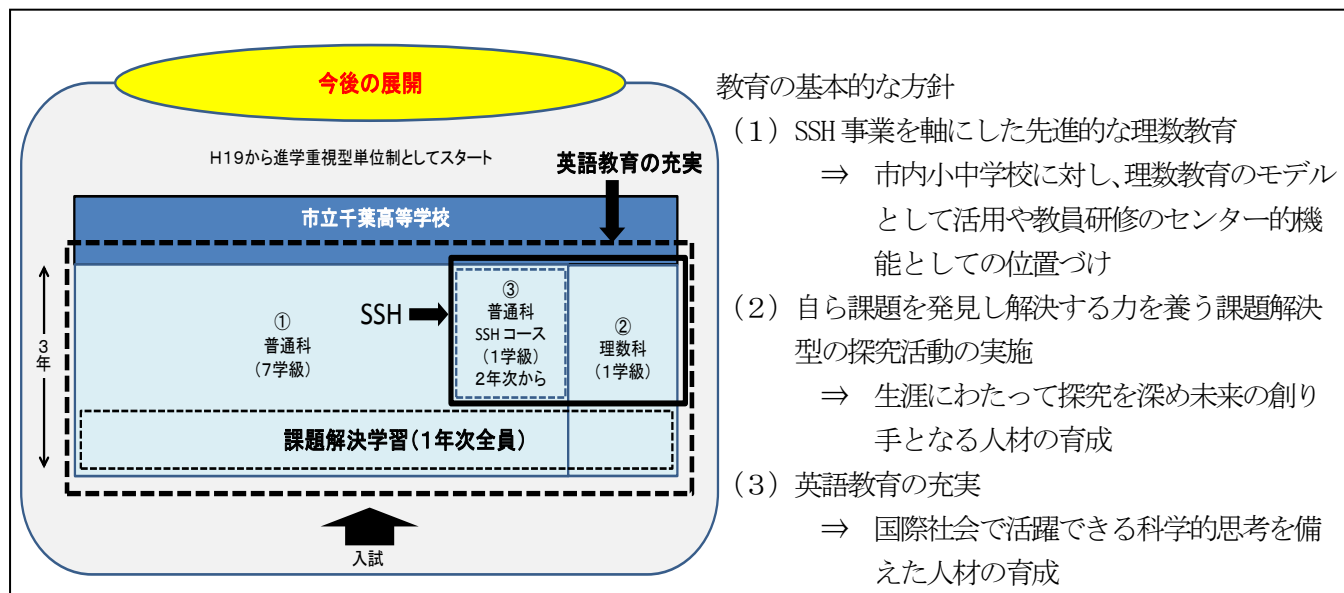
### 市立千葉高等学校



### 市立稲毛高等学校・附属中学校



### 今後の展開



現行の体制を維持しつつも市内における先進的な理数教育の拠点としての位置づけを目指す。

### 教育の基本的な方針

- 6年間一貫教育の強みを生かした国際教育  
⇒ 基礎学力の確実な定着と希望進路の実現
- 地域の課題を題材とし、世界の課題と比較する課題解決型学習の実践  
⇒ 広い視野で実効性のある課題解決能力を持ったグローバルリーダーの育成
- 次世代の社会を支えるのに必要な資質・能力を意識したキャリア教育の充実  
⇒ 千葉市を地域や海外から支える人材の育成

### H34~(H39完成) (中等教育学校)

